

## 平成29年度 サービス管理責任者養成研修 就労分野 演習事例の概要

○氏名：長野 太郎（仮名）さん

○生年月日：1980年（昭和55）年5月5日（37歳）

○障がい：知的障がい（療育手帳 B1）

○概要：

しなの市に住む長野太郎さんは、地元の特別支援学校高等部の卒業と同時に、市内の自動車部品製造工場へ障害者雇用枠で就職した。天気のいいときは毎日自転車で20分かけて出勤。太郎さんの努力や父母・妹の励ましもあり、大きな問題も無く勤めていた。

2011年（平成23年）10月に妹が結婚し県外へ移住、2014年（平成26年）6月に父が病気で急に亡くなってからは欠勤が増え、楽しみであったボウリングにも行かれなくなり、会社と話し同年12月退職となった。太郎さん34歳の時である。現在は母と二人暮らしである。

母は、退職して以降、自宅から殆ど出ることがなくなった太郎さんに、家事などを手伝ってもらいながら自宅での生活を続けてきたが、夫を失ったショックや太郎さんの面倒を見ることにも疲れ、また自身も高齢であるため、「なんとかならないか」と今年（2017年：平成29年）11月末に市の障がい福祉課に電話を入れた。

連絡を受けた障がい福祉課の担当者は、早急に障がい者総合支援センターに連絡し、翌日の12月1日センタースタッフと一緒に家庭訪問を実施。母が、退職して自宅で過ごしている太郎さんの今後をどうしたらよいか心配を訴えている横で、黙って座っている太郎さんがいた。

その後、障がい者総合支援センタースタッフによる基本相談などを繰り返した結果、「母親の事が心配だけど、また働いてボーリングとかを楽しみたい」と言うニーズを受け止める事が出来、先ずは福祉サービスの利用という合意から指定特定相談支援事業所「みすず相談支援事業所」の上田相談支援専門員の紹介をし、計画相談支援の準備が進められた。12月18日には太郎さんと上田相談支援専門員で複数の就労系福祉事業所を見学し、その結果、太郎さんの希望であんず就労支援センターの就労移行支援事業を利用することになった。あんず就労支援センターの利用開始日は平成30年1月11日からとなった。

長野太郎さんを受け入れる事となったあんず就労支援センターとしては初めて福祉サービスを利用するという事も含めて、圏域で実施している就労アセスメントシートを活用した後に個別支援計画作成・実施を行う事となった。